

スペイン語専攻

◆専攻語代表挨拶

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

スペイン語専攻は、スペイン語の習得を土台とし、スペイン語圏の文化一般に関する専門的な知識を身につけたスペイン語圏ジェネラリストを育成することを究極の目標としています。これを目指して、スペイン語の習得とスペイン言語学、スペイン文学、ラテンアメリカ文学、スペイン史などの学問分野を中核とする《スペイン学》教育を実施しています。

スペイン語の習得については、1年から専門教育が始まります。2年生の終了時に阪大に合格できる英語力と同程度のスペイン語力を修得しておくことが必要です。3, 4年になると上記の諸分野の専門的な勉強をすることになりますが、その際には原書の内容を素早く正確に理解する力が必須となります。1, 2年の間に十分な語彙力と読解力を付けておかないと、3, 4年の専門に関する勉強の楽しさやアカデミズムに接することができませんので、1年から気を抜くことなく勉強に励んで下さい。

専門分野の選択については、皆さんの好きな分野を選べばよいのですが、実際には、上記の各分野でどのような「学び」があるのかについては現時点でなかなか判らないのではと思います。2年以降に各分野の概論がありますので、全ての概論を履修して選択肢を増やし、各自一番興味を持った分野で卒業論文を書く（ゼミを選ぶ）ようにして下さい。もっとも、ゼミには人数制限があります。1, 2年の成績により希望するゼミに入れないこともありますので留意して下さい。

繰り返しになりますが、スペイン語圏の様々な専門的知識をできる限り多く知る、身につけることに心がけて下さい。卒業に必要な単位数をぎりぎりクリアするのではなく、全ての分野の授業で好成績を修めて卒業するのだという意気込みで頑張ってください。

大内一

◆専任教員

大内一（教授、専攻語主任）：スペイン史

長谷川信弥（教授）：スペイン言語学

岡本淳子（准教授）：スペイン文学

中本香（准教授）：スペイン史

松本健二（准教授）：ラテンアメリカ文学

ホセファ・ガルシア＝ナランホ（外国人特任教授）：スペイン語教育学

各教員の連絡先は KOAN 上に記載してあります。

◆専攻語での4年間と1年次実習について

* 4年間のスケジュール

1～2年のあいだは専攻語到達度目標に合致するスペイン語力を身に着け、同時に2年では必修の概論（専攻前期講義）を通じてスペイン語学・スペイン史・スペイン文学の基礎も学びます。3年に進級した段階で、上記5名の日本人専任教員が担当するゼミに所属し、そこを基盤としつつ、より高度な語学運用能力、スペイン言語学、スペイン語圏の歴史、文学等を幅広く学び、必要な単位を取得したうえで最終的に自分が選択した個別テーマに関する卒業論文を提出、関係教員の審査を受けて合格すれば晴れて卒業という運びです。

在学中に海外留学を希望している人も多いでしょう。留学の時期にこれといった決まりはないですが、3年の夏季から1年間休学してスペイン語圏の大学や併設語学学校に滞在というパターンが一般的です。1年間休学をして留学をすると、順調に進級して卒業するとしても5年かかることとなります。

卒業に必要と単位数は学生便覧の「外国語学部卒業要件単位一覧」を参照してください。

* 専攻語1・2年実習の重要性

スペイン語専攻では専攻語1・2年実習科目が極めて重要です。入学して最初の2年間で履修する10科目（1年で5科目、2年で5科目）でどれだけ努力したかが、その後4年間の充実した学業成果を達成するうえで欠かせない鍵となります。

苦しい受験勉強を経てたどり着いたキャンパスライフ、最初のうちは誘惑も多いでしょう。クラブ活動等、授業以外にもやりたいことがたくさんあるかもしれません。しかし、この専攻語1・2年実習科目だけは絶対に手を抜かず、全力で取り組んでください。

共通教育などで他学部の新入生と知り合うこともあるでしょう。しかし、他学部の1・2年生とは違う学習ペースが必要ということを自覚しましょう。阪大の授業科目は一般的に各学期（半年）終了時に成績評価をしますが、外国語学部の専攻語1・2年実習科目は2学期（通年）終了時に成績評価をします。年間を通じた継続的学習が求められるのです。

1年から2年、2年から3年への進級は、それぞれの学年で履修した5つの専攻語実習科目すべてに合格している必要があります。合格とはS（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、不可とはF（0～59点）のことです。5科目のうちただ1科目でも不可があると翌年も同じ学年に留め置かれ、次年次の専攻科目を履修することはできません。高校の追試等に相当する事後的な救済措置ありません。

この状態を「留年」といいます。

到達度目標に書かれた語学力を身につけない限り進級はできません。

苦手な科目はCで合格すれば上等……自分は要領がいいから今サボっても帳尻合わせできる……といった根拠なき妄想を抱かず、5科目すべてにおいてAかSを目指すという外国語学部生として当然の気概をもって望みましょう。

各学年の到達度目標については学生便覧を参照してください。

*今年履修する1年実習科目

以下の5科目を履修します。科目名の後のカッコ内は、順に授業内容：担当教員：実施時間
枠：教室です。スペイン語3～5の3科目についてはクラス分けがありますので、自分が履修する5科目がどれなのかKOANを見て必ず確認しましょう。

スペイン語1（文法：長谷川：金4：共A-305）

スペイン語2（文法：中本：月3：共C-401）

⇒2科目とも全員履修します。同じ教科書でリレー式の授業を行いません。

スペイン語3A（講読：大内：月2：共A-303）

スペイン語3B（講読：中本：月2：共A-313）

⇒自分が所属するクラスをひとつ履修します。

スペイン語4A（総合：金3：岡本：共C-104）

スペイン語4B（総合：木4：駒村：共A-303）

⇒自分が所属するクラスをひとつ履修します。

スペイン語5A（会話：ガルシア＝ナランホ：木1：共C-S2）

スペイン語5B（会話：ガルシア＝ナランホ：木2：共C-S2）

スペイン語5C（会話：ガルシア＝ナランホ：火1：共C-S2）

スペイン語5D（会話：ガルシア＝ナランホ：火2：共C-S2）

⇒自分が所属するクラスをひとつ履修します。スペイン語3, 4のクラスとは違う少人数クラスです。所属するクラスを必ずKOANで確認すること。なおこの会話クラスは初回からすべてスペイン語で行いません。

◆教科書、辞書、参考書

*教科書

スペイン語専攻の1年実習に必要な教科書は3冊です。豊中キャンパスの生協教科書販売所で購入し、初回の授業に持参してください。KOAN シラバスに記載済みですが、念のため下にも挙げておきます。

スペイン語1と2（共通）

長谷川信弥『スペイン語 [改訂版]』（世界の言語シリーズ7）』大阪大学出版会

スペイン語3

西川喬、セフェリーノ・プエブラ『スペインを知るために』第三書房

スペイン語4

GIDE（スペイン語教育研究会）語彙研究班編『リスニング問題付 スペイン語語彙練習帳—¡スベ単!ライトー』朝日出版社

スペイン語5

なし（授業で配布）

*辞書

いくつかの選択肢がありますが、とりあえず授業開始までに1)と2)で星印のついた辞書を購入し、初回のすべての授業に持参してください。なお、電子辞書は、スペイン語を搭載した単独モデルが販売停止になりましたので、電子辞書の場合は下記に従って別売りのスペイン語コンテンツを追加してください。

1) スペイン語→日本語[和西辞典]

書籍かデジタルいずれかひとつを必ず用意してください。

☆(書籍) 小学館『和西中辞典 第二版』(6,600円)

☆(デジタル)

i Phone, i Pad 用アプリ[下記の和西辞典も収納](4,000円)

<http://www.monokakido.jp/iphone/espanol.html>

電子辞書:カシオエクスワード外国語ベースモデル XD-SX7000 (約44,000円)

これに追加コンテンツで以下のスペイン語の辞書を追加する

ダウンロードの場合は、XS-HA09DL(11,000円)

CD-ROM の場合は、XS-HA07(7,678円)

その他の辞書

白水社『現代スペイン語辞典(改訂版)』(4,200円)[多くの電子辞書で採用、上記電子辞書にも収録]

白水社『スペイン語大辞典』(25,000円)[2015年刊行、日本最大の語彙数の辞典]

2) 日本語→スペイン語[和西辞典]

☆(書籍) 小学館『和西辞典』(4,200円)

[2014年2月刊で最新、電子辞書には未搭載、アプリはあり]

その他の辞書

三省堂『クラウン 和西辞典』(4,500円)

白水社『和西辞典(改訂版)』(4,800円)[多くの電子辞書で採用]

*参考書、単語帳

市販のものがいくつもあり、自由に選んでくれたらいいですが、1年実習の補助用としては☆印の参考書がおすすめです。

文法参考書

☆上田博人『スペイン語文法ハンドブック』 研究社(3,200円)

白水社『中級スペイン文法』(5,200円)

単語・熟語

高橋寛二『基本のスペイン単語』 白水社(1,600円)

高橋寛二他『例文で覚える スペイン語熟語集』 白水社(2,300円)